

## V. 日本型システムの情報特性と「日本病」

### A. 平成「日本病」の症状

#### 1. 経済分野

##### a. 平成不況と回復

「バブル（1980-90年代初）」とその崩壊  
不況・停滞の長期化  
安定社会が実現、しかし所得格差は拡大

##### b. 需要面

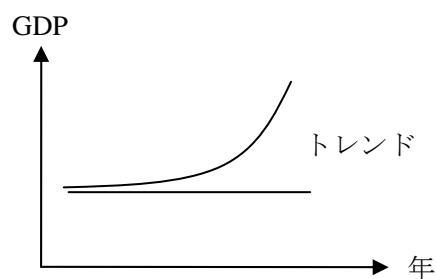
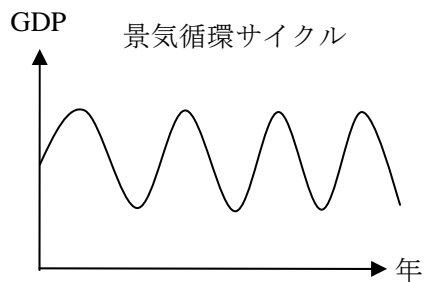
消費停滞（心理的、将来不安たとえば年金問題）  
投資回復（バブルの後始末、新規起業の不振）  
ただし2004年から大企業を中心として投資が回復中  
デフレの終息

##### c. 生産部門

安定生産（従来方式の継続）  
海外からの競争圧力  
工場の海外（中国など）移転  
金融の停滞  
不良債権はおおむね整理済み  
新規融資が増大中  
低効率分野の「整理」は停滞  
「生活防衛」と直結  
労働市場の硬直化  
2分割： 正規社員と臨時雇用  
フリーター、ニートの増加  
2005年から好転

##### d. 循環要因と構造要因

（サイクルとトレンド）  
サイクルは好況へ  
トレンドは低成長・停滞型  
生産性向上が遅れる



## 2. 政治・行政分野

### a. 全体としての「機能不全」

社会全体のために必要な「意思決定」ができない

「抵抗勢力（広義）が広く残存」

各部門の自己保全・権限維持という誘因が強い

例：道路公団「問題」

「道路目的税の一般財源化」問題

（高速）道路の建設

建設業界の権益

### b. 旧来システムの欠陥

公共事業型支出に依存

とくに地方経済

政府（中央・地方）財政赤字が累積

政府財政赤字の累積

対GDP比が世界でダントツ

過度な規制（多数）が残存・保護

金融、教育、医療、通信・放送・電波等

### c. 「システム改革」メカニズムの不在

憲法改正手段の長期欠落  
国会・自治体議会が弱体  
行政・官僚の支配

### 3. 社会・生活・文化

#### a. 文化は発展

人々のエネルギーの向けどころ (?)  
成熟 (衰退?) 期の現象

#### b. 社会・生活

少子化社会、人口の急速減少  
女性差別

### 4. 「変革」のはじまり (?)

#### a. 自然的「変革」——経済「圧力」の作用

終身雇用の漸次崩壊  
終身雇用のままでは競争に負ける  
「リストラ」の強行  
「成果主義」の採用  
しかし構造問題が残っているため摩擦が強い  
企業会計制度改革、金融ビッグバン (外圧)  
従来方式のままでは海外取引ができない

#### b. 意識的・計画的「変革」の例

司法改革  
政治主導 (橋本内閣時)  
規制緩和 (一部のみ)  
「規制緩和特区」

### 5. 社会全体のための情報手段

広域コミュニケーション  
「マスコミ (テレビ、新聞)」に大部分を依存  
情報不足  
詳細情報、地域情報  
一部の情報に対する歪められた反応  
企業不祥事 (雪印乳業、東京電力、三菱ふそう他)  
災害・事件 (O157、SARS、鳥インフルエンザ、イラク人質他)

## B. 日本社会・経済システム「変革」の歴史と情報特性

### 1. 幕末と明治維新

#### a. 幕末時の問題

固定的幕藩体制、前例の支配と腐敗

硬直した社会制度、

身分制度（世襲、クローズド型）

経済制度（株仲間、組合、クローズド型）

家内工業、手工業、職人型技術（習うより慣れろ）

寺子屋教育（読み書き・手習いとそろばん）

#### ・情報特性

前例・繰返し・慣習と「暗黙の強制」

ケースごとの音声言語による伝達・命令

ほとんどすべて非定型情報

幕藩体制：平和な時代

固定体制——前例の支配

形式だけまねればよい

内容は問題にならない

腐敗（わいろなど、固定体制の間隙で自己の利益をはかる）

身分制度

士農工商（四民）

支配階級

役人

戦国時代の武士が文官に変身

現在の官僚、事務官に続く

固定社会：従来やり方を守る

社会の進歩を否定

実際：経済成長（ゆるやかだが継続）

商人が豊かになる

武士が貧しくなる <矛盾>

江戸時代の組織のガバナンス

前例とくり返し（音声情報による指示への依存と、くり返しによる習熟）

↓    ↑    適合状態

情報の節約（少量の情報で足りる）

\*紙と筆、和紙：習得に長時間、技術を要する

書き役（右筆）、専門職

コピー作成は手書きで写す必要

文書情報のための技術が不十分であった

音声情報に頼らざるを得なかった。

## b. 明治・大正期の発展

近代国家体制

四民平等（オープン型）

普通教育の普及

競争的人材登用（オープン型）

国家組織、法治体制（オープン型）

富国強兵、軍事国家

植民地を求める、軍事偏重の重工業

「帝国主義の背景」

### ・情報特性

「読み書き能力」の一般的普及

ペン・鉛筆が漸次普及

団体行動・役割分担能力の習得

行政組織・会社・警察・軍隊などで近代的分業が実現

近代国家に必要な最小限の法令を整備（国家組織、個人財産）

ただし基本的人権や言論の自由は欠落

全体主義・軍国主義

## 2. 第二次大戦と戦後経済成長

### a. なぜ日本は（失敗が予測されたのに）第二次大戦にとび込んだのか（？）

植民地獲得による膨張

軍事政権と閉鎖的集団

グループ一体型行動

批判を許さない国家一体主義（神国思想）

外の世界の情報を拒否し、内にこもる（クローズド型）

- ・ 歴史：第2次大戦まで日本人最大の失敗
- ・ 横並び型社会（←音声による賛同表現）
  - 満場一致の原理
  - 反対ができない

#### ・ 情報特性

軍部支配を阻止する法的メカニズムなし

（第2次大戦は、軍部による「合法的支配」の結果であった）

軍部組織自体は「階層型合議体」で運行

リーダーの不在

リーダー選出ルール・権限規定なし

名目リーダーを任用し、その直下で複数の「実力者」が合議決定

意志決定能力の不足

決定手順・ルールの不在

「無責任状態」が生じやすい

少数意見の表明が難しい（横並びの傾向）

### b. 戦後の経済成長

（軍国主義から）文化国家・「経済国家」への目標切り換え

中高等教育の普及

競争的人材登用がさらに進む（オープン型）

## 製造業の発展

リーン生産技術（高品質の製品）

工夫・改善（「カイゼン」）による品質改良

（小規模）グループ作業

輸出重視と貿易による経済膨張

戦後日本の発展と日本型組織と情報

経済的どん底 → 生きることに精一杯

心理的どん底 → (スローガン) → 文化国家 (目標)

経済国家 (結果)

衣食住のために働く → 急速な経済成長 (1960~1980年代)

途上国 → 先進国レベル (世界一のスピード)

### ・情報特性

組織運営の基本は「戦時体制」(1940年体制)を踏襲

音声言語による伝達重視 (文書による伝達の軽視)

人と人との直接連携を重視

個人の「心がけ」「努力」を重視

組織の欠陥が分からなくなる

「ものづくり経済」、「キャッチアップ経済」には適合

小グループ単位の協力

改善の重視、しかし創造は不振

- 戦後日本の経済成長
  - 製造業の発展：安くて良い製品を実現
  - 段階的発展（産業ごと）
  - サービス業：良好だが高いサービス
- 戦前
  - 絹織物：家内工業製品
  - “Made in Japan”（戦前）＝すぐこわれる商品
  - 軍需産業は発展
- 1950年代
  - 繊維産業、化学繊維、輸出の主体
  - 造船業＝輸出
- 1960年代
  - 鉄鋼業：鉄鋼石、石炭の輸入、広範な需要
  - 加工産業：板、パイプ、柱 →多段階、多様→コンピュータ制御
  - 国内需要を充足、輸出力を備える（外貨を稼ぐ）、高度製品
  - （例）現在でも日本のみ生産、ボールベアリング（ビデオ用）
  - “Made in Japan”（戦後）＝すぐれた製品
- 1970年代
  - 家電製品（テレビ、冷蔵庫、エアコン、その他多様）
  - しかししだいに空洞化、国内生産の海外移転、世界の市場を制服
- 1980年代
  - 自動車
  - 半導体（デザインがよい、安い、壊れない）